

|                           |                   |  |
|---------------------------|-------------------|--|
| えんぼとたんぼの始発駅<br>里山ビオトープ二俣瀬 | <b>会 報 第 43 号</b> | 2005年2月23日<br>里山ビオトープ二俣瀬をつくる会<br>編集責任者：西原 一誠 |
|---------------------------|-------------------|--|

## 1. 活動報告（事務局 記）

- 2月6日（日）作業は湿地帯の橋の修理でした。22名の参加でした。橋げた補修と新作はいずれも未完でしたが、方向性がつかめたので次回は完了する予定です。また椎茸のホダ木は約40本くらい出来ましたので次回は菌の打ち込みを行なうことが出来ます。
- 2月19日（土）作業は小雨の中継続して橋の修理でした。17名の参加でした。一応の橋の通行は可能となりました。さらに今年度中に延長や改造を加えたいと思います。引き続いての活動をお願いいたします。  
また午後からは、「里山自然観察隊」の計画会議に12名の参加を得まして観察計画と予算案が決まりました。
- 2月20日（日）車地の会員7名にて昭和山遊ロードの天堤から市道までの草刈りと清瀬峡寄合滝付近の川岸整備をしていただきました。

## 2. 今後の予定（事務局 記）

### ◎ 見学者

—現在のところ予定者は有りません

### ◎ 行事

- 3月6日（第一日曜日）の活動 湿地帯散策橋の補修。椎茸ホダ木菌打ち込みです。
- 3月19日（第三土曜日）の活動 看板の交換、木炭交換と補充
  - ※ 竹炭の焼成を行ないます。日程は追って連絡します。
  - ※ 3月28日の週 会の会計監査です。

## 3. ビオトープ関連（ビオトープ周辺の植物） 美濃和 信孝

### 早春の草花

オオイヌノフグリは、この時期の冬枯れた景色の中では春告げ花の一番に上げててもよいくらい、よく目立つ草花です。小さなブルーの花がじゅうたんのよう的一面に咲いているようすは大変きれいです。ヨーロッパあるいは西アジア原産のゴマノハグサ科の越年草で、日本で初めて確認されたのは1880年ころとされています。その後あっという間に全国に広がったのは、この旺盛な繁殖力によるところが大きいようです。花は一日花で、夕方には閉じてしましますが、たとえ虫が受粉に訪れなくても自家受粉をしてさっさと結実し、たくさんの種を残します。秋には芽生えて、畑や道端のようなところでは一面にはびこって年内には早くも花を付け始めます。匍匐枝をいくらかでも伸ばして花を次から次へと付けるので、早春の裸地状の場所では優先種になりやすい草です。巨大台風の襲った昨年は、秋にはすでに一面に花を付けている光景が見られました。

タネツケバナは、田んぼや畦など、やや湿ったところを好む越年草で、田おこし前の田一面に白い花を咲かせているのを見ることがあります。その名前は、花が咲くとイネの種籾を水に漬ける作業の開始を告げることからきています。

水田の雑草には、イネの栽培のサイクルをうまくいかして暮らしているものがあり、タネツケバナもその1種です。春先、まだ水入れされていない田で花を咲かせ、田植えの前には早々と結実します。そ

して秋になると、収穫後の水を落とした田で発芽し、翌春の開花に備えて冬を過ごします。茎は普通暗い紫色で柔らかく、根元から多く枝分かれし、葉は羽状です。春先に枝先に白い小さな十字形の花を開きます。ナズナに似ていますが、実はバチ状ではなく菜の花のように棒状なので区別は容易です。アブラナ科の植物特有の生で噛むとピリッと辛くクレソンのように酸味があります。ありふれた野草の中では食味は上等な部類ですから、サラダやお浸し、天ぷらなどがお勧めです。



オオイヌノフグリ（ゴマノハグサ科）

タネツケバナ（アブラナ科）

#### 4. ビオトープ関連（会員の声）（益田 真一 記）

今回、若林会員から会員の声のバトンを受け取った益田です。

ビオトープが出来て早くも5年が経ったんですね。この5年間、私はいろんな体験、勉強させていただきました。最初、ビオトープの意味も知らず入会したのですが、皆さんと一緒に活動して行く内に私なりに分かってきたと思います。

体験と言えば、色々体験させていただきましたが、二俣瀬で生まれ育った私は家が農家でなかった為、田植え、稲刈りなどした事もなく、初めて子供と参加しました。当然、私も子供も初めての体験で、最初は親子で田んぼに足をとられたり、稲もきちんと刈れず悪戦苦闘したのを覚えています。

そういえば、蓮根掘りも初めてでした。素手で掘って爪の間が真っ黒になり、次からは「ゴム手袋をしよう！」1つ勉強になりました。

もし、二俣瀬にビオトープができなかったら、私達親子はこんな貴重な体験はしなかったでしょう。今の子供達は聞く、読む、見るだけで体を使って学ぶ事をしてないと思います。素晴らしい場所がこの二俣瀬にあります。

水生生物と共に生きる場所ですが、これからの「人」も生きる場所ではないでしょうか……

次回は 関根 雅彦 会員にリレーします。宜しく

## 5. 来訪者の声 (東屋のノートより一部抜粋)

— 今回も記載ありません

## 6. 会よりの連絡事項

- (1) 竹炭の教育用に準備していましたが、申し込みも無いため3月のはじめに当会にて竹炭を焼いて水浄化用に使います。竹炭を焼いてみたい方お申し出下さい。
- (2) 平成17年度の総会を4月第一日曜日9時よりに開催します。振るってご参加ください。

## 7. 編集後記

今月の作業は、湿地帯の八つ橋の架け替えでした。来月中には、おそらく完成すると思います。計画案を見せられたときは、本当にできるのか半信半疑でした。しかし、なんとかなるものです。皆さんの努力（私は、殆ど眺めているだけでした）のおかげで、確実に完成に近づいています。湿地帯の中で見ると泥だらけの新橋ですが、道路から眺めると旧橋との違いが明らかにわかり、みごとなものです。計画案を出された寺森さんはすごい。

さて私もアイデンティティをだすために、何かしなければなりません。幸か不幸か、昨年作った須賀河内川の淵と浅瀬が小さくなっております。これを改修しようという、よからぬ考えが浮かびました。来月は、旧八つ橋の廃材を利用して、川の流れを少し変えてみましょう。うまくいきますかどうか。

(前田 歳朗 記)